出 H

和

雄 君

作

曲

花若く我汝が許に希望満ち今宵宿らんぱなかかかれないもといのでみみしてよいやと 漕ぎ出づる愛奴の漁舟の岸辺佇ち沁々眺む に星 の散るなり幽けさよ松の火燃え

7 暢び行かん我が民族の 逞 しき息吹き感じぬ。 ・ゅ・・ タ タメギ< ド<\*\*・ トン゙\*・トン゚\* 春青み辛夷咲くなり逍遙の原始林蔭清くはのあるこぶした。 葉脈の強きを讃ふ草々のたふれ生れて 決意する光眩ゆく手に取りぬ楡の嫩葉はいいのかのままが、これである。 乾坤に伏し祈るなり栄光あれ祖国の生命
はんじん、ふーいの

若き世の秩序を背負ふ洋々の日と倶にゆかなむホゥ゙ ボ゙ セ゚ロヒボ サ ボ゙ ポラムラ゙ ロ゙ ピゼ 忍苦して欣求むるところ得べくして得べからざりし 轟さ ける き使命に捧ぐ 幸 の今日にしあれば かの雄叫びよ創造の歴程一路

失な 立て歩め 浄らかに燃え熾る刻継ぎ行かな来ん若人に 燦めきの星辰は語らひ微香る大地 囁き しょうしょ しょうしょう はじ高きが矜持護り来し伝統の法火 光の中を国民の重き責任負ひ きぬ